

かしま

HOT 通信

8月号 Vol.355

令和4年(2022年)8月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団法人 養生会

〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...
上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
かしま病院広報企画室まで
kouhou@kashima.jp

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォンをご利用の方は、

QRコードを読み取り、アクセスしてください。

PCサイトと同じ内容をご覧頂けます。



1 2 巻頭特集

NST(栄養サポートチーム)のご紹介

高坂小の児童たちへ、
出前講座を行いました。

— 医療職種の魅力発信事業「看護の出前講座」 —

3 コラム ひんがら目(182)

「四国の病院からの照会状で初めて知った
重症患者さんの遠出」

呼吸器科 部長 山根 喜男

4 ようこそ家庭医療へ!

リハビリPOST

ノベルティのご紹介

かしま荘通信

お盆休みの外来診療のお知らせ



当院のお盆休みの外来診療日について、
下記の通りご案内いたします。

8月 August

10日 水	11日 木	12日 金	13日 土	14日 日	15日 月	16日 火
診療	山の日 休診	診療	休診	休診	休診	診療

16日(火)から通常通り外来診療を行います。

ご迷惑をおかけしますが、

ご理解の程よろしくお願ひいたします。



巻頭特集

NST(栄養サポートチーム)のご紹介

医師、看護師、リハビリ、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師がメンバーになっていきます。例えば、栄養士は食事や栄養摂取方法に関するこ



NSTの構成

NST(Nutrition Support Team)とは、栄養サポートチームのことです。NSTは、主に入院中の患者さんの栄養状態を評価し、その人にふさわしい栄養管理を提案することで、治療→回復→退院→社会復帰を支援しています。栄養状態を良好に保つことで、感染症や褥瘡(床ずれ)の発生を予防することも役割の一つです。NSTは院内の多くの部署や関係委員会と連携をしながら活動していきます。

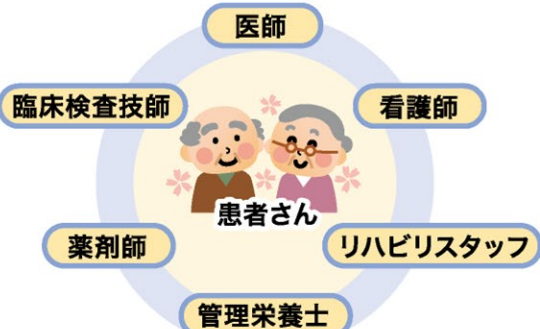


NSTとは



病 気で入院治療が必要となった場合、医師の指示による治療と同時に、しっかりと栄養を取ること也很重要です。
治療がうまく進んでも、十分な栄養が取れていないと体は弱ったままになってしまいます。今回は、患者さんの栄養管理をサポートするNSTについてご紹介します。

NST(栄養サポートチーム)



と、リハビリは食事の姿勢や嚥下機能(食事を飲み込む力)に関することなど、各専門職がそれぞれの視点から意見を出し合いながら患者さんを支援していきます。
最高責任者である医師が中心となり、専門職の意見を集約して、患者さんにとって最も適切な栄養方法を提案していきます。

当院NSTの活動

NSTの活動の一部をご紹介します



勉強会の開催

職員を対象として、栄養に関する勉強会を開催しています。同じ内容の勉強会を1か月に3回開催しており、毎月約30名の職員が参

加してくれています。勉強会の内容は、栄養の基礎をはじめとして、食事の姿勢や経腸栄養の管理など、当院の患者層を踏まえて普段の業務で活用できる勉強内容に工夫しています。

NST回診

NSTメンバーが病棟を回診して、患者さんの様子の確認や口腔ケア等を実施しながら、支援の方針を話し合います。

毎日患者さんの様子を見ている病棟の看護師からも話を聞き、状態を確認します。また、回診はスキンケアチームと合同で実施して

おり、栄養状態と密接な関係がある褥瘡等の状態の確認や処置、体位変換等も助言しています。

委員会活動

NSTスタッフが一堂に集まり、病院給食への患者さんからの声や、現在NSTが介入している患者さんの情報共有、今後のNSTの活動について話し合います。また、医療安全の観点から、院内で発生した栄養に関するインシデントについて情報共有し、問題点や改善点等について話をして危機管理の意識を高めています。

食欲不振食の提供



入院中は病気が原因だったり、環境の変化や今後の不安など、様々な理由から食欲が無くなってしまふことがあります。しかし、少しでも食事をしたいと思っている患者さんは多くいらっしゃいますし、私たち医療者も入院中の楽しみとして食事をとっていただきたいと

思っています。

そこで、給食の別メニューとしてつけ麺やフルーツ盛り合わせなどの食べやすいメニューを用意して、希望する患者さんに提供しています。食事を楽しむためのきっかけづくりになればと思います。

嚥下障害の方への支援



脳血管疾患などによって嚥下機能が低下した患者さんへの支援もしています。嚥下機能が低下するとスムーズに飲み込みができなくなり、食事がのどに詰まりやすくなったり、むせやすくなったりと、誤嚥性肺炎になる危険性があります。そのような方には、ペースト食、刻み食、一口大など、患者さんが安全に食べることができる食形態から食事を開始して、言語聴覚士による嚥下機能のリハビリをしながら、少しずつ正常食に近づけていきます。

また、安全に食事をするためには、姿勢や食べ方なども重要なので、その指導もしています。患者

さんが退院した後に、入院前と同じように食事をしていただきたいという気持ちで支援しています。

嚥下機能
リハビリ体操



今後の目標

患者さんの栄養管理を適切に行うには、私たちNSTだけでなく、多くの職員に栄養に関する知識を学んでもらう必要があります。

これまでにお伝えした活動を通して、多くの職員の栄養に関する知識や技術が向上していくことで、患者さんの栄養管理を適切に行うことができる体制を常に維持することが重要です。「食べる意欲は生きる意欲」であり、これからの活動を継続して、安心して入院生活を送っていただけるように、栄養面から患者さんをサポートしていきます。

かしま病院 NST

(栄養サポートチーム)

勉強会



委員会活動



ようこそ 家庭医療へ!

～いわきに生きる家庭医療育成への挑戦～

第150回 緩和ケアと総合診療の融合

診療部 石井 敦



2022年7月11日に開催された第122回いわき緩和医療研究会特別講演の座長を務めさせていただきました。講師は、東北大学大学院緩和医療学分野講師の田上恵太先生でした。

緩和医療専門医はとても希少で、専門医だけでは緩和ケアを実践するための人員が到底足りません。そこで田上先生は、緩和ケアの質の標準化をはかるために、地域に赴きアウトリーチ活動をされています。アウトリーチとは、専門的な知識やスキルが十分ではない診療機関に専門家が定期的に訪問し、共に診療に関わることにより、地域の医療従事者のスキルや知識の向上を目標とするものです。

講演の中で田上先生は「緩和ケアは総合診療との連携推進が必要である」と述べられました。確かに、総合診療は「地域」目線を持ち、「地域」でよく生きることによってフォーカスする医療であり、生き方や価値観、そしてコミュニケーションに重きをおく「人(患者)と人(家族)と人(地域)を診る医療」を提供するものであり、総合診療は緩和ケアと親和性の高い医療です。

総合診療医が提供するケアは、QOL(生活の質)の向上

を目標とし、個別性を重んじ、家族もケアの対象であり、地域にあるリソースを広く活用します。つまり、総合診療も緩和ケアと同様に、診断、予後、年齢、場所、重症か軽症かを問わず病いととも生きるすべての人と家族を対象とし、医療・介護・福祉従事者とその部門・施設が協働してケアを提供します。必然的に、実際に緩和ケアを提供するのは、総合診療医をはじめとしたプライマリ・ケアにかかわる人々というのが世界的な流れとなっています。

日本プライマリ・ケア連合学会では、緩和ケアの世界的な位置づけを踏まえ、標準的な緩和ケアを普及していくために教育・研修体制を整え、世界標準の総合診療医を育成すべく、日本緩和医療学会と合同で研修プログラム開発に着手しています。今後ますます、互いに連携し合って発展していけたら、多くの人たちが安心して最期まで生きることができる町づくりにつながるでしょう。



かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第137回

転倒の要因と予防

前回は、転倒後に起こる弊害についてお話ししました。今回は、転倒の要因と予防についてお話ししていきます。

要因には内的と外的の2つがあります。内的要因とは転倒しやすい身体や精神機能の状態をいいます。主に「下肢

や体幹の筋力低下、歩行障害(速度や耐久性の低下)、薬剤、認知症、視力障害、起立性低血圧(立ちくらみ)などがあります。外的要因は主に住環境などの環境要因のことです。具体例としては「滑りやすい床、障害物、暗い照明、段差、不適切な杖や靴」が挙げられます。この2つの要因が組み合わさる事で転倒する危険性が非常に高まります。この要因を元に転倒の予防を説明します。

まず、内的要因の予防には「下肢や体幹のストレッチ・筋力トレー

ニング」「ウォーキング」等の運動は大切ですが、それ以外にも対策できることがあります。まず「内服薬の副作用を確認する」「認知症の有無を病院で確認する」「視力を測り適切な眼鏡を使用する」「普段から血圧を測り、起立性低血圧の対策をする」です。

次に外的要因の予防は、住環境を整えることです。具体的には「自宅の家具や物を整理整頓する」「段差を減らし、手すりを付ける」「照明を明るくし、夜間は足元等にライトを設置する」「敷物は固定するか、滑りにくい物を使用する」「かかとのある滑りにくい靴を履く」等があります。

今回は転倒についてのお話をしました。患者様の入院理由として「転倒」は非常に多いです。ちょっとしたことで転倒して要介護状態になってしまう方もいます。そうならない為にも、今回説明した転倒予防策を実践し、より良い安全な生活が送れるようにしましょう。

作業療法士 松尾ゆうか



かしま荘通信

参議院選挙の不在者投票を行いました。7月7日(木)



7月7日、参議院福島県選出議員選挙・参議院比例代表選出議員選挙の為、不在者投票を行いました。

入居者様の皆様、テレビ・新聞などで立候補者の情報を調べておりました。皆さん真剣な様子で投票を行っておりました。

Thanks

ノベルティのご紹介

毎年就活生向けに配布しているノベルティが完成いたしました。

今年度は...

①養生兄弟オリジナルパッケージのお茶



②当院ロゴ入りふせん



病院見学や当院の就職説明会にお越しいただいた皆さんに、「ご縁に感謝」してお渡しいたします!お気軽にお越しください。